

研究事業 衛星観測に関する研究事業(衛星観測センター)

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 定常的な業務をしっかりと行っており、COVID-19のCO2濃度への影響など、興味深い分析結果も公表するなど重要な役割を果たしている。【年度】
- 今後、国際的に宇宙開発や宇宙環境保全が重要となるとわれ、国環研による貢献に大いに期待している。「GOSAT」の語が、国際的なガイドブックに明記されることになったとのことは、大変意義のあることと思う。【事後】
- 現在計画中のGOSAT-GWでは、オールジャパンで強力な開発チームを組織し、利用者グループとの強い連携を図り、オリジナルなセンサー開発にも配慮しつつ、優れた観測システムを立案し、ぜひ成功してほしい。【事後】

今後への期待など

- 衛星観測研究は、国立環境研究所の強みのひとつであり、コロナ後の国際的な研究協力・連携を工夫しながら、脱炭素社会の実現にむけた基礎研究を推進してほしい。【事後】
- 着実に気候変動研究を支える衛星を活用したデータの収集とその分析、そして共有、加えてGOSATシリーズ研究の公募に見られる研究活動の活性化を目指した取り組みは高く評価される。予算やマンパワー等の面で、困難も多々あると思われるが、継続を是非期待する。【事後】
- コロナ禍で対面での国内外の活動ができなかったことは致し方ない。明示していただけたことは明確で良い。ただ、それらの中には遅滞が望ましくないものが少なくない。それらの対応を今後、どのようにしていくのかを教えてください。【年度】

主要意見に対する国環研の考え方

- ① オールジャパンという観点からは環境省、JAXAは当然のことながら、気象庁／JAMSTEC／NICTとはデータ交換やアルゴリズム研究などに関する協定を今後も維持するとともに、これらの組織外の個々の国内研究者に対してサイエンスチーム／研究公募への勧誘などの働きかけをするなど、より強力なチームの構築を目指したいと思います。
- ② 「脱炭素社会の実現にむけた基礎研究」については、今までのメンバーのみでは難しい面もありますので、新たな協力関係による推進を模索したいと思います。
- ③ 限られたリソースの中で最大限の成果をあげるとともに、新たなリソースを獲得すべく活動を続けていきたいと思えます。
- ④ RA PI (研究公募 研究代表者)会議については比較的コンパクトなオンライン会議を来年度に開催する方向で検討を本格化しました。遠隔地における現地観測については、コロナ禍の収束が見えてきた段階で万全の感染症対策のもと段階的に再開することになるかと現時点では考えています。